

<「知るっば！久留米」 令和3年7月8日（木） 12：30～放送分>

## 全国総本宮 水天宮 ～第2回～ 「水天宮にまつわる慣習や縁起物」

<ゲスト：全国総本宮 水天宮 権宮司 眞木 啓樹さん>

坂本 MC（以下「坂本」）

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

7月は、「水天宮さん」でおなじみの『全国総本宮 水天宮』をテーマにお送りしています。  
ゲストはこの方です！

ゲスト：眞木さん(以下「眞木」)

水天宮の眞木啓樹(ひろき)でございます。よろしくお願いします。

坂本 『全国総本宮 水天宮』の第2回目は、『水天宮にまつわる慣習や縁起物』などについて  
お話を伺いたいと思います。

まずは、境内の至る所にある椿の御神紋(ごしんもん)から伺います。

椿の花をかたどった御紋は、どんな由来があるのですか？

眞木 そもそも御神紋というのが社紋ということで、水天宮はこの椿になります。

椿というのは、安徳天皇が筑後にそのまま生き延びられたという説の中で、

筑後の豪族の娘の玉江姫(たまえひめ)という方と恋に落ちるお話があります。

「椿は八千代を寿(ことほ)ぎ、井桁(いげた)は契りを宿すとかや」という歌を玉江姫に  
歌ったという言い伝えが残っていて、その恋物語が今の御神紋になったと言われています。

坂本 なかなかロマンチックなお話ですね。

水天宮恋物語というお菓子もありましたけれど、ロマンチックな恋物語があったんですね。

ご本殿の周りには、たくさん色々な種類の椿が植えられていますよね。

境内では、何種類くらいの椿を拝見することができるのでしょうか？

眞木 約20種類くらいあると言われていています。久留米を代表する品種「正義(まさよし)」だったり、  
「水天宮紅唐子(すいてんぐうべにからこ)」というちょっと珍しい品種など色々あります。

坂本 まるで椿園のようですね。私も農政部にいましたので椿のことは少しかじったんですが、  
咲く時期も違いますので、長くきれいなお花を楽しめるんじゃないかなと思います。

冬から春にかけてではあるんですが、参拝の際には、ぜひご覧になっていただきたいです。

8月の「水の祭典久留米まつり」が近くなると、賑やかな太鼓の音が聞こえてきますよね。

うちの息子達も叩いておりましたお馴染みの「船太鼓」なんですが、

水の祭典の大きな出し物にもなっていますが、この船太鼓についても教えていただけますか？

眞木 船太鼓にも壇ノ浦の戦いと安徳天皇にまつわるお話があります。  
安徳天皇は、祖母の二位の尼（にいのあま）に抱かれながら崩御なさるわけですが、源平共に自分の船の船縁を叩きながら、軍鼓（ぐんこ）を叩いて、安徳天皇のご冥福を祈ったと伝えられています。  
その名残というのが、今も京町小学校の子ども達がメインですけども、「水天宮船太鼓」として残っております。

坂本 そんなに歴史のある由緒正しい太鼓なんですよ。  
実は、子ども達が叩かせてもらったのもあるんですが、長男が教育系の大学に行ったんですが、大学の卒業論文で船太鼓について書いたりもしました。  
今でも、境内から稽古の音がすると、懐かしい気持ちになりますね。  
最近は少子化で子どもの数も減っていますので、なかなか太鼓を継ぐのも大変なのかなと思うのですが、伝統の継承はどのようにされていますか？

眞木 実際、太鼓を叩く子ども達もかなり減ってきております。  
ただ、出演があったらその穴を埋めてくれるのが中学生のOBであったりします。  
そういった子達に叩き手として参加してもらうこともあります。  
伝統芸能ということで、子ども達が叩くことに意味があると思っていますので、今後どんどん少なくなるのは困ることもありますが、できるだけ多くの子ども達に広げたいなと思っています。

坂本 夏の風物詩ですからね。ぜひ続いてほしいと思います。  
風物詩と言いますと、水天宮様は「ひょうたんのお守り」も有名ですよ。  
私達が子どもの頃は、たいてい首に小さなひょうたんのお守りを着けていましたね。  
実際、子どもの頃はよく知らなかったんですけど、これにはどんなご利益があるのですか？

眞木 ひょうたんのお守りには、「お子様が水の事故にあわず、すくすくと育つように」という願いが込められています。  
ひょうたんの中には、「内符（ないふ）」というお守りが詰まっています、昔から伝説であったのが、ひょうたんが浮き代わりになってぶくーと膨らんで命が助かるとか、そういうのが名残となって首に着けるといのが、このお守りの珍しいところだと思っています。

坂本 イメージで言うとライフジャケットみたいですね。よくわかりました。  
ちなみに久留米の水天宮は全国総本宮で、全国的にはどのように分社されているんでしょうか？

眞木 よく言われるのが、御分霊社、つまり御霊を分けたところですね。  
北は北海道から南は鹿児島というところで、全国の小さい祠（ほこら）や水天宮までいれると

2~300社ぐらいあると言われていました。

なかでも江戸時代の文政元年(1818年)に、第9代藩主有馬頼徳(よりのり)公が当時の江戸藩邸内に御分霊されたのが、今の東京水天宮の始まりになります。

江戸時代には、その藩邸内にあった水天宮が縁日には一般開放されて、多くみなさまが御参拝に訪れたと言われていました。

また、その時のお賽銭が、久留米藩の財政を助けたという話もあります。

坂本 久留米藩の財政にも貢献していたというのはなかなか面白いですね。

眞木 明治4年に現在の中央区日本橋に御遷座(ごせんざ)されたのが、現在の東京水天宮です。

坂本 立派な建物が日本橋にありますよね。たしか、最近、建て直されたんですよね？

眞木 そうですね。今は本当にきれいになっていますね。

坂本 東京の水天宮は現在、有馬家の方が神職を務められていまして、水天宮さんと筑後地方は、今も繋がっているということがよくわかりました。

眞木さん、今回も貴重なお話をありがとうございました。

水天宮にお越しの際は、密を避け、境内の感染症対策にのっとり参拝してください。

次回は『水天宮の歴史』というテーマでお送りします。

おたのしみに。